

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

②産業界等、社会のニーズと大学院教育のマッチングを図るための企業等との教育連携

《医療系》

●東京医科歯科大学医歯学総合研究科口腔機能再構築学系専攻

「大学院から医療現場への橋渡し研究者教育」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

企業との連携や、プログラムの改善・社会から要求されている人材像の把握を目的として、国内の医歯用機器・材料企業の訪問・見学を計4回実施した。さらに、大学院生を長期にわたり国内企業に派遣するインターンシップを実施する予定であったが、実施できなかった。

(苦労したこと、困難であったことの詳細な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

企業側からは、大学関係者(大学院生・教員)との意見交換は有益であり、企業訪問・見学実施後のアンケートでも継続を望む声が出たため、教育連携への一定の効果は認められたが、大学院生の長期の派遣を望むという強い要請までは、企業側からはなかった。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

国内企業ではないが、海外医歯工研究機関に大学院生1名を長期派遣(2.5か月)できた。プログラムの計画段階から国内企業のニーズを十分に掴んでいれば、大学院生にとってより望ましい、企業との教育連携実施体制が構築できたものと思われる。